

# 南越稲作情報（H20版） No1

## — 稲作を始めるにあたって —

丹南農林総合事務所 農業経営支援部

基本技術の1つ1つを確実にいき、品質向上に努めましょう。

### 1 耕うん・・深く耕す。

胴割米、乳白米は、耕深の浅い水田で発生しています。

### 2 田植え時・・いもち病、初期害虫の予防粒剤（Dr オリゼプリンス粒、嵐プリンス粒など）を施用する。

（但し、播種・育苗時に予防剤を施用していない場合のみ）

※ 粒剤の量が少ないと効果がありません。適量を施用しましょう。

※ いもち病予防のため、水田内にある補植苗は活着後速やかに除去しましょう。

### 3 肥料・・収量、品質の安定に非常に重要です。

生育中の水稻が、「茎数が過剰となる」、もしくは、「葉色が濃くなりすぎる」と

①粒の大きさが小さくなります。 ②食味が低下します。 ③倒伏します。

昨年までの生育状況を振り返って、肥料の量を考えましょう。

・ 5月上旬に植える場合と5月10日以降に植える場合とで基肥量は違います。

「分施の場合、5月10日以降の移植なら、5月上旬移植より、

**窒素 1kg/10a 少なくなります**

「コシヒカリ一括肥料なら遅植え専用タイプを使用すれば、適正な施肥量となっています」（※ 池田町は除く）

・ イクヒカリの品質低下について

特に、多収田で品質が低下しています。転作後水田では基肥量を減らしましょう。

### 4 農薬使用・・薬剤の使用法を遵守するとともに、飛散を防止しましょう。

・ 育苗ハウスで水稻育苗後に野菜等の作付けを行う場合は、ハウス内で絶対に農薬を使用しないで下さい。

・ 農薬を散布したら、必ず記帳しましょう。